

### 祝 二十周年

平成最後の今年、国立あおやぎ苑は開苑二十周年を迎えます。五月には新しく介護専用型ケアハウス国立あおやぎ苑を開所し、ますます地域の皆様が安心して利用できる施設を目指して参りたい所存です。十月十三日には記念誌も発行されることとなり、これまでの発展の経緯を傍で見守ってくださいました皆様のご支援には大変感謝しております。

思い返せば、平成十年十月十二日の開設に至るまで、いくつもの高いハードルがあり、心の折れるような出来事もたくさんありましたが、常に希望を持ち前進あるのみと頑張って参りました。土地の借入、資金調達と並んでスタッフの確保も早い時期から対応しました。特に老健の目玉であるリハビリスタッフは、多くの老健で苦勞していたため、リハビリ機器納入業者との交渉に力を入れて早めに確保するようにしました。看護師、介護職員の確保についてもハローワーク、地元専門学校の助けを得て人員基準より多い人数を採用しました。施設運営で重要な部分を占める相談職員はあえて新卒職員を採用し育成することにしました。

施設入所者の募集は、平成九年十月頃から市内の各種団体に積極的に訪問等を行い、定員一杯の二二〇名の登録が決まりました。そのなかで、老健はせっかく入所出来たのに三ヶ月、六ヶ月等で退所させられるのかという質問は多く寄せられました。当苑では、介護者の不安を少しでも軽減すべく、開設当初より入所者がリハビリ等によって在宅に戻れるまでお世話する方針をとっています。また、当時、東京都では少なかった認知症専門棟も設置し、家族支援に積極的に努めています。

質の高いサービスを継続していくために先ず経営の安定化が重要と考え、人材の育成に努めて参りましたが、この問題は現在も最重要テーマとして常に私の頭から離れません。幸い優秀なスタッフに恵まれ、定着率も高くなっていますので、今後も職員が安心して仕事出来る体制作りを進めて参ります。末筆ながら、地域になくはない施設運営を目指してより一層努力して行く事をお誓いし、引き続き地域の皆様からのご支援ご厚情を賜りたくお願い申し上げます。



医療法人社団 国立あおやぎ会

常務理事 中川 進

## 特集 何が変わったの!? 平成30年度介護報酬改定 ケアハウス編

ケアハウス国立あおやぎ苑でも在宅復帰を積極的にすすめる『超強化型』へ移行するべく取り組みを始めました。

在宅復帰先はご自宅だけではなく、グループホームや有料老人ホーム・サービス付き高齢者住宅やケアハウス、特定施設等があります。



介護が必要でご自宅での生活が難しい方に、安心して過ごしてもらえよう、当法人では介護専用型ケアハウスを平成30年5月に開設しました。

国立と立川の老人保健施設で



経験を積んできた介護職員や看護職員が異動して、介護サービスを提供しております。専任の相談員やケアマネジャー・リハビリスタッフがおり、ケアプランの作成や機能訓練を行っています。

また、隣接する法人施設のクリニックとも連携し、医療サービスを提供しています。

より家庭的な雰囲気の中で、穏やかに過ごしていただけるよう取り組んでおりますので、一度見学に来てみてはいかがでしょうか？

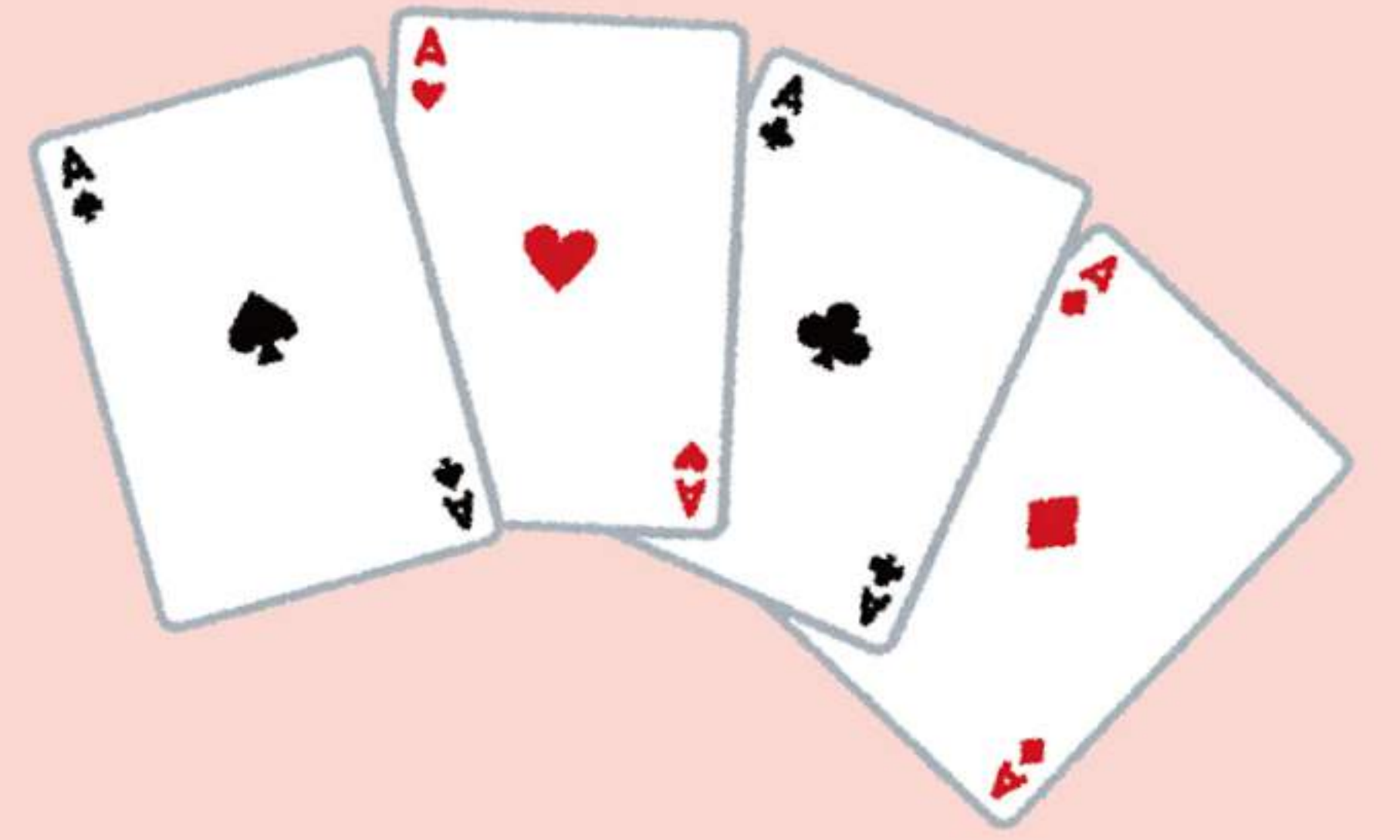
文責 伊藤綾子



# みんなでLet's!リハビリ! 第7回

## トランプゲーム

今回ご紹介するリハビリは、既存棟2階を中心に行っているトランプゲームです。リハビリでトランプゲームを行う事に違和感を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、トランプ等のゲームは認知症リハビリテーションにおいて推奨されているプログラムの一つです。具体的な効果としてはルールを理解し（記憶力）、その中で、相手の出方や動きに注意し（注意力）、予測や自分の行動に機転をきかせ工夫する（想像力）事で認知機能を活性化します。実際にプログラム参加者の皆様は実施前に比べ、日常生活の中で笑顔が増えたり、様々な活動に対する意欲が向上している印象を受けます。ゲームを通じた認知症のリハビリテーションには多岐に渡りますが、参加される方が楽しむ事が一番重要です。今後も様々なゲームを利用者様に提供し、楽しく認知機能を維持、向上出来ればと思います。



## 納涼祭2018

今年も8月3日（既存棟）、8月4日（縄文棟）の2日間にかけて納涼祭が開催されました。今回も縁日では綿菓子、かき氷、射的、ヨーヨー釣りなどが出店し、賑やかなお祭りとなりました。リハビリ課の男性職員によるお化け屋敷等も楽しんで頂いた様子でした。恒例となっているよさこい踊りでは、今年は皆様も参加できるような踊りを追加し大変盛り上がりました。皆様の手拍子や掛け声のおかげで、楽しく踊ることができました。多数のご参加、ご観覧ありがとうございました。



## あおやぎ徒然草26

寄稿者四名の方々の執筆へのひたむきな思いを直に感じながら連載して参りましたこのコーナーもお陰様で二十六回目を迎えました。いつも読んで下さり、ありがとうございます。

今回は、平成二十九年六月号（徒然草十八）から毎回、故郷青森での腕白な思い出を綴り、楽しませて下さっている永遠の野球少年永澤直之さんに作業療法士佐々木がお話をお聞きしましたのでご紹介いたします。

佐々木 自らのブログも続けている永澤さんにとって、文章を書くことは生活の一部のようなごく自然な活動ですか？

永澤さん リハビリの一環として書いています。青森県立の男子校出身で勉強もスポーツもやりました。好きな作家は青森出身の太宰治と井上靖。太宰の小説は全部読みました。『しろばんば』、『夏草冬濤』、『北の海』は井上靖自身が幼少から青年になるまでの自伝的作品です。私は図書館司書になりましたが、仙台の大学も決まっていたのにバイクでハマをやり、大学の推薦も無くなり、仙台のコンピュータ専門学校へ入りました。文系から理系に大転換。ここ東京まで流れ着いたので。コンピュータ技術師として国分寺の日立で働きながら二つの野球部に入っていました。大黒ふ頭にある物流倉庫へ出向の時は電車でもバスでも文庫本をよく読んだものです。野球も忘れるほど忙しかったのですが、長男が中学で野球部に入り、土日はコーチもどきをし、ソフトボールのチームにも入っていました。晴天の霹靂（青森の米も美味しいですよ）、一月四日に倒れ、右麻痺、失語症の状態が続いています。パソコンのキーボードも左手で打っていますよ！（笑）

佐々木 今後、徒然草を通して伝えていきたいことは何でしょうか？

永澤さん 「徒然草」、いい言葉です。その言葉を大切にしたいと思います。青森のを中心に思い出しながら書いてみます。

佐々木 ありがとうございます。

次回はいつも永澤さんと同じ曜日（日）にリハビリを頑張られている利用者様からぜひ投稿してみたいとお申し出がありましたので紹介します。永澤さんには来年度二月号より連載を続けて頂きますので、どうぞこれからもよろしくお願いたします。

## 私のふるさと自慢

私のふるさと、新潟県新潟市をご紹介します。

一面の田んぼ、近くには越後山脈と日本海。新潟市内を流れる信濃川と阿賀野川。とてもどかで、空気がおいしいところです。

私の実家はお米と梨を作っています。ゴールデンウィークには田植え、シルバーウィーク頃には稲刈りと梨もぎが毎年恒例で行われ、

小さい頃から手伝わないとひどく怒られたものです。ですが、一仕事したあとの新米や梨は格別に美味しかったのを覚えています。

他にも新潟には笹団子やポッポ焼き、イタリアンや新鮮な海の幸など新潟県ならではの美味しいものがいっぱいあり、とてもいいところです。機会がありましたら是非、新潟へ～!!

理学療法士 佐藤由紀

